

あつし塾長の

# 子のやる気 親の気づき

〇〇32



推薦希望の大学受験生には志願理由書の×切日がいよいよ近づいてきました。しかし、今年は例年以上にペーソスが上がりません。私は、提出された下書きに目を通しながら将来の夢などいくつか質問をし、自分の考えを整理させていきます。最

## 想像力

近は親の世代のような「末は博士が大臣か」などという画一的な価値観はすっかり影を潜め、「一応、会社を興したい」「取りあえず勝ち組に!」「まだ決まってるんですけど、公務員かな」など、本当に個性的な回答が多くなりました。

しかし、「推薦に落ちたら?」など想定外の質問には「...」「今の頑張りのまま1年間ぐらい勉強を続けてみ

# 育てるには時間が必要

## 自分自身と対話し鍛える

by yoriko



ては?」と提案すると「ダメです。親が浪人はダメだと」と強い返事が。さらに「なぜ君の夢をかなえるためなの?」と聞くと、やは「...」。そこで「君が親の立場になって考えたら、子どものためにどうする?」と投げ掛けてみました。するとかなり考えた末に「人それぞれだからその時にならないと分かりません」とまじめに答えてくれました。

また、中3の女子が「学校で講演会があり、今は出産時に男の人も立ち会うそうです。かなり感動するそうです」と教えてくれました。私は違和感を「最近、ゆるきゃら」という言葉の通り、

覚えたので、クラスの中3女子に「だんなさんに立ち会ってほしいか?」と聞いてみました。賛同、反対、無回答の3派に分かれました。賛同派の理由は「だって苦しいのは一人じゃないや」、反対派の理由は「だって、スッピンでしょ」というたぐいのものでした。子どもたちの言い方は別として、生と死をみんなに囲まれていたという考えは確かにあると思います。感動」の影にある営みや対極にある複雑な現実に対する子どもたちの想像力は、大人になるまでに果たして大丈夫なのだろうかと思配になりました。

最近、ゆるきゃら」という言葉の通り、

り、ゆるい個性が受け入れられる時流かもしれませんが、個人を大切にしたいことにする、やりたいことややるべきことは人それぞれという考え方も確かに大切です。しかし、人は実は一日の大半を自分自身と対話しています。ため息、うなずき、つぶやき、独り言...、人は自分の内面、想像力を鍛えています。そして、他人とはいくら言葉を尽くしても理解し合うことは難しいという場面に出合い、相手のしぐさ、癖を観察し、相互に心を積み重ねます。

子どもにとって、友達と一緒に過ごす時間は、自分らしさを確認できる絶好の機会でもあります。しかし、

どもを見守る親の方が待てずに、どうも結論を早く出したがる感じがしています。子どもの想像力を育てるには時間が必要です。(畑山篤二 志学塾塾長)

## 教育

# ニュース なぜなに

この制度を利用するのに必要な証明書を作るよう部下に指示した、と主張しました。これに対し、元局長は事件には無関係と言いつづけてきました。地検は裁判に、元局長の部下らが取り調べの時、元局長から指示を



け、関係者と抱き合っ  
村木厚子(元局長)

子どもたちの宮部みゆきみねかおるさ  
子どもたちの  
学、高校と学  
書量が減る確  
る。読書に興  
第二線の  
本  
おつと、第一  
子どもに直接  
が東京都内で  
文京区の講  
生ら約140  
の児童向け小  
文庫」創刊30  
州や東北から  
もいた。作家  
んと宮部みゆ  
と、大きな飲  
両氏の作品を  
ラクターの名  
物の行動など  
れ、会場は和  
「ふっやっ  
か」。続く質疑  
の手が拳がら